

# 中学校保健体育科教員の各小單元に関する意識の調査研究

上田 裕司 / 西岡 伸樹

## 1 研究目的

中学校保健体育教員の保健分野の各小單元（身体の機能の発達，応急手当など 15 小單元）の指導に関する意識の実態および、その関連要因を把握し，その結果を踏まえて各小単元の学習指導に向けた支援と方策を検討する。

## 2 研究方法

### 1) 対象

2012 年 7 月初旬～8 月上旬にかけて 3 府県内の中学校に勤務する保健体育科教員 254 名に無記名自記式回答形式による質問紙調査を行った。本調査は，事前に回答の了解を得られた対象者に集合配布法および郵送法により配布し，回収の際には，厳封できる封筒を使用(集合配布法での一部は，その場で回収)した。また，対象者が特定されないようにデータ処理を行い，回答を拒否できることを明記するなどの倫理的配慮をおこなった。

### 2) 調査内容

15 個の小單元(表Ⅱ)のそれぞれについて表 1 に示した(1)から(8)までの各質問を 4 件法(1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない)により回答を求めた。調査内容である(1)から(3)は，学習指導の支援に関する質問項目で，(4)は，指導に活用できる資源の状況，(5)から(7)は，指導した生徒への影響，(8)は研修会に対する意識などで順序尺度のとして設定した。また，⑨は使用した指導方法を複数選択で選ぶ形式をとった。

表Ⅰ 調査内容

(1)	本小單元について深い知識を持っていたと思う
(2)	本小単元の指導内容を十分に把握していたと思う
(3)	本小単元の指導に適した教材について十分に検討したと思う
(4)	本小単元の指導内容に対応した指導資料は十分あると思う
(5)	あなたが指導した本小單元に対して生徒が関心を示したと思う
(6)	あなたが指導した小單元を生徒が理解したように思う
(7)	あなたが指導した小單元では生徒が考えたり工夫したりしていた
(8)	本小單元に関する研修会があれば参加すると思う
(9)	本単元の指導で使用した指導方法の番号に○を付けてください。(複数選択可能) 1. ブレインストーミングを取り入れた授業を行った 2. 実験・実習をとり入れた授業を行った 3. グループワークを取り入れた授業を行った 4. 事例を用いた授業を行った 5. 養護教諭や栄養教諭，外部講師と一緒に授業を行った

### 3) 分析方法

分析は、PASW Statistics 19 を用いて統計処理を行った。各小单元間と質問項目の回答の同一性の検討は Friedman 検定を行った。また、関連性の検討は  $\chi^2$  検定を行い、有意な関連がみられた場合は残差分析を行った。

#### 【結果】

(1)から(8)の各質問について小单元間の比較(Friedman 検定)を行った。その結果、各小单元の意識は有意であり、各小单元によって回答状況が異なった。

(1) 表 II は、経験年数と各質問項目のクロス集計である。「身体の機能の発達」「生殖にかかわる機能の成熟」「精神機能の発達と自己形成」などの 11 個の小单元に有意な関連が認められた。特に、「感染症の予防」では経験年数と質問 3 項目との間に有意な関連が認められた。また、質問項目の「本小单元の指導に適した教材について十分に検討したと思う」「本小单元の指導内容に対応した指導資料は十分あると思う」については、経験年数と有意な関連がみられなかった。

表 II 経験年数と質問項目

質問項目 小单元	(1) 十分な知識をもっていた	(2) 指導内容を十分に把握していた	(5) 生徒が関心を示した	(6) 生徒が理解したように思う	(7) 生徒が考えた工夫した	(8) 研修会があれば参加する
1. 身体機能の発達	**	*				
2. 生殖にかかわる機能の成熟	*	*				
3. 精神機能の発達と自己形成	**					
5. 身体的环境に対する適応能力・至適範囲					*	
6. 飲料水や空気の衛生的管理				*		
7. 生活に伴う廃棄物の衛生的処理					*	
9. 交通事故などによる傷害の防止					**	**
10. 自然災害による傷害の防止					**	
11. 応急手当					**	**
12. 健康の成り立ちと疾病の発生要因	**	**				
14. 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康						*
15. 感染症の予防	**	*	*			

\*p<.05 \*\*p<.10 n=246~254  
 経験年数は、5年未満、5年以上10年未満、10年以上20年未満、20年以上の4に区分。  
 表中の空欄は n,s.  
 各小单元の番号は、表 I の小单元の番号と異なる。  
 質問の番号は表 1 の番号に準ずる

## (2) 各質問項目と経験年数と有意な関連が認められた小単元の回答傾向

### ①身体機能の発達

本小単元では、「十分な知識を持っていた」とする肯定的回答（以下、「そう思う」および「まあそう思う」の比率合計を肯定的回答とする）は、5年未満の教員（以下、5年未満と記す）は74.7%、5年以上10年未満の教員（以下、5年以上10年未満と記す）は80.3%、10年以上20年未満の教員（以下、10年以上20年未満と記す）は82.7%、20年以上の教員（以下、20年以上と記す）97.1%であった。また、残差分析の結果から5年未満は、「あまりそう思わない」する回答が有意に多かった。また、「指導内容を十分把握していた」とする肯定的回答は前述と同様の傾向がみめられ、残差分析の結果から5年未満は、「あまりそう思わない」する回答が有意に多い。

### ②生殖にかかわる機能の成熟

本小単元では、「十分な知識を持っていた」とする肯定的回答は、5年未満は84.5%、5年以上10年未満は90.4%、10年以上20年未満は88.4%、20年以上は98.5%であった。また残差分析の結果から5年未満は「あまりそう思わない」の回答が有意に多く20年以上が「そう思う」の回答が有意に多い。

### ③精神機能の発達と自己形成

本小単元では、「十分な知識を持っていた」とする肯定的回答は、5年未満は65.2%、5年以上10年未満は67.3%、10年以上20年未満は86.6%、20年以上は89.8%であった。また残差分析の結果から5年未満および5年以上10年未満が「あまりそう思わない」の回答が有意に多い。

### ④身体環境に対する適応能力・至適範囲

本小単元では、「指導に対して生徒が考えたり工夫した」とする肯定的回答は、5年未満は57.4%、5年以上10年未満は52.6%、10年以上20年未満は51.0%、20年以上は64.3%であった。また、残差分析の結果から5年以上10年未満が「そう思わない」の回答が有意に多く、20年以上は「まあそう思う」の回答が有意に多い。

### ⑤飲料水や空気の衛生的管理

本小単元では、「指導した生徒が関心を示した」とする肯定的回答は、5年未満は74.4%、5年以上10年未満は76.3%、10年以上20年未満は78.4%、20年以上は67.2%であった。また、残差分析の結果から5年未満が「あまりそう思わない」の回答が有意に多い。

### ⑥生活に伴う廃棄物の衛生的処理

本小単元では、「指導に対して生徒が考えたり工夫した」とする肯定的回答は、5年未

満は 57.4%，5 年以上 10 年未満は 52.6%，10 年以上 20 年未満は 51.0%，20 年以上は 64.3%であった。また、残差分析の結果から 5 年以上 10 年未満が「そう思わない」の回答が有意に多く、20 年以上は「まあそう思う」の回答が有意に多い。

#### ⑦身体的环境に対する適応能力・至適範囲

本小単元では、「指導に対して生徒が考えたり工夫した」とする肯定的回答は、5 年未満は 57.4%，5 年以上 10 年未満は 52.6%，10 年以上 20 年未満は 51.0%，20 年以上は 64.3%であった。また、残差分析の結果から 5 年以上 10 年未満が「そう思わない」の回答が有意に多く、20 年以上は「まあそう思う」の回答が有意に多い。

#### ⑨交通事故などによる傷害の防止

本小単元では、「指導に対して生徒が考えたり工夫した」とする肯定的回答は、5 年未満は 68.7%，5 年以上 10 年未満は 58.6%，10 年以上 20 年未満は 71.2%，20 年以上は 70.0%であった。また、残差分析の結果から 5 年以上 10 年未満が「そう思わない」の回答が有意に多く、20 年以上は「まあそう思う」の回答が有意に多い。「研修会があれば参加する」の回答にも有意な関連がみとめられ、5 年未満は 66.7%，5 年以上 10 年未満は 60.3%，10 年以上 20 年未満は 55.8%，20 年以上は 38.6%の肯定的回答であった。残差分析の結果から 20 年以上が「研修会があれば参加する」について「あまりそう思わない」の回答が有意に多い。

#### ⑩自然災害による傷害の防止

本小単元では、「指導に対して生徒が考えたり工夫した」とする肯定的回答は、5 年未満は 64.1%，5 年以上 10 年未満は 56.1%，10 年以上 20 年未満は 61.5%，20 年以上は 68.6%であった。また、残差分析の結果から 5 年以上 10 年未満が「そう思わない」の回答が有意に多い。

#### ⑪応急手当

本小単元では、「指導に対して生徒が考えたり工夫した」とする肯定的回答は、5 年未満は 76.5%，5 年以上 10 年未満は 72.8%，10 年以上 20 年未満は 84.3%，20 年以上は 79.9%であった。また残差分析の結果から 5 年以上 10 年未満が「そう思わない」の回答が有意に多く、20 年以上は「まあそう思う」の回答が有意に多い。「研修会があれば参加する」の回答にも有意な関連がみとめられ、5 年未満は 76.5%，5 年以上 10 年未満は 76.7%，10 年以上 20 年未満は 75.0%，20 年以上は 55.0%の肯定的回答であった。残差分析の結果から 10 年以上 20 年未満が「まあそう思う」の回答が有意に多く、20 年以上は「あまりそう思わない」の回答が有意に多い。

#### ⑫健康の成り立ちと疾病の発生要因

本小単元では、「十分な知識を持っていた」とする肯定的回答は、5 年未満は 66.7%，

5年以上10年未満は81.6%，10年以上20年未満は78.9%，20年以上は95.7%であった。また，残差分析の結果から5年未満は，「あまりそう思わない」する回答が有意に多かった。「指導内容を十分把握していた」とする肯定的回答は前述と同様の傾向が認められ，残差分析からも5年未満は，「あまりそう思わない」する回答が有意に多い。

#### ⑬喫煙，飲酒，薬物乱用と健康

本小单元では，「研修会があれば参加する」の肯定的回答は，5年未満は74.7%，5年以上10年未満は76.7%，10年以上20年未満は67.3%，20年以上は48.5%であった。また，残差分析の結果から20年以上が「そう思う」「あまりそう思わない」の否定的回答が有意に多い。

#### ⑭感染症の予防

本小单元では，「十分な知識を持っていた」とする肯定的回答は，5年未満の教員は71.67%，5年以上10年未満は86.4%，10年以上20年未満は68.57%，20年以上は94.2%であった。残差分析の結果では5年未満は，「そう思わない」「あまりそう思わない」の否定的回答が有意に多かった。また，「指導内容を十分把握していた」とする肯定的回答は前述と同様の傾向が認められ，残差分析では5年未満は，「あまりそう思わない」する回答が有意で，20年以上は「そう思う」の回答が有意に多い。さらに「あなたが指導した本小单元に対して生徒が関心を示したと思う」の肯定的回答は，5年未満は79.1%，5年以上10年未満は86.4%，10年以上20年未満は94.2%，20年以上は91.1%であった。残差分析の結果では5年以上10年未満が「そう思わない」の回答が有意に多く，5年以上10年未満「そう思う」の回答が有意に多い。

#### 【考察】

本研究では，中学校保健体育科教員の保健分野の各小单元(身体機能の発達，応急手当など15小单元)の学習指導に関する意識および意識の関連要因について教員の経験年数と各小单元の関連および意識の実態の把握を目的とした。その結果，以下の点が主に明らかになった。

1. 15個の小单元中12個の小单元に経験年数と質問項目との間に有意な関連がみられた。
2. 「身体機能の発達」「生殖にかかわる機能の成熟」「健康の成り立ちと疾病の発生要因」「感染症の予防」などは学習の展開に関する質問項目であり，特に，5年未満の経験年数の教員の回答結果からこれらの小单元に関して十分な知識が不足していることや，学習内容を十分に把握していないことが窺われた。
3. 「身体環境に対する適応能力・至適範囲」「生活の伴う廃棄物の衛生的処理」「交通事故などによる傷害の防止」「応急手当」などの小单元では，5年以上10年未満の教

員の指導において生徒が考えたり，工夫していないと感じていることが明らかになった．

- 4．研修会の参加に対する意識では，経験年数の浅い教員が積極的であり，経験年数の多い教員とは違う傾向がみられた．

#### 今後の課題

本研究では，効果的な保健学習の指導を行えるように学習支援の在り方や経験年数の浅い教員への支援の方策などについて検討を行った．特に，各小単元の指導においては経験年数の浅い教員への支援が必要であると考えられた．そのため，各小単元の特性についてさらに分析を深め，各小単元の指導方法についても検討していくことを今後の課題としている．